毛新聞　（第三種郵便物承認）

医療通訳アプリ開発

前橋のC＆T

立場別6種類 7言語で問診

医療通訳支援サービスを手掛けるC＆T（前橋市石倉町、滝沢清美社長）は、外国人が医療機関を受診する際にスマートフォンなどで意思の疎通を図れるアプリ「メディカルランゲージ」を開発し、販売を始めた。訪日外国人が増える中、簡便に使える通訳手段として普及を図り、医療現場における「言葉の壁」の解消に取り組む。

アプリは、症状を伝える患者用、医師用、看護師用、検査技師用、薬剤師用、事務員用の6種類用意した。日本語と英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、ポルトガル語、スペイン語の7言語に対応する。

発熱、頭痛、打撲といった症状がいつから現れたか、どれくらいの痛みかなどを「はい」「いいえ」「分からない」などと答えてもらうことで患者の容体を見ていく。開発にあたり、群馬大医学部附属病院の医師や看護師らに意見を聞き、6種類で問診に必要な約5千の会話を収録した。文章は音声で読み上げる。

外国人の診察に同行する医療通訳ボランティアは県内に135人いるが、時間や物理的な制約がある。アプリはインターネットに接続していなくても利用でき、24時間、人命に関わる緊急の現場でもスムーズな情報伝達が可能になる。

同社はまた、専用システムを使用した遠隔医療通訳コールセンターの稼働に向け、今秋から各地の病院と連携し実証実験を始める。

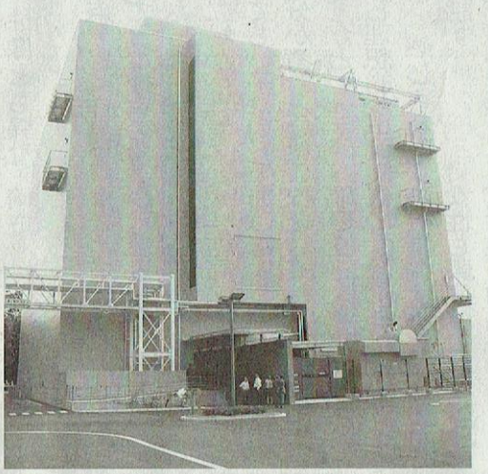
東京五輪が開催される2020年には4千万人が海外から訪れるとされ、急病などで受診する外国人の増加が見込まれる。コールセンターはそうした人に対応するほか、在外邦人や手話を通じた聴覚障害者とのやりとりも行う考え。

滝沢社長は「現状のままでは医療通訳者は足りない。言葉の壁をなくすソリューションを提供していきたい」と話している。

アプリはiPad版、iPhone版がある。事務員用のみ無料で、全ての言語、職種に対応する「メディカルランゲージPro」は2万8800円。問い合わせは同社（☎027・251・5515）へ。

最大級の培養タンク

協和発酵キリン 医薬製造棟完成祝う



高崎工場に新設されたバイオ医薬の製造棟

がんなどの抗体医薬品を製造する協和発酵キリン（東京都千代田区、花井陳雄社長）は2日、高崎市萩原町の高崎工場で新たなバイオ医薬製造棟の竣工式を開き、関係者70人が完成を祝った。1万2千㍑入る国内最大級の培養タンクを設け、生産能力を2割増やして国内外への供給態勢を強化する。

年内に稼働し、商業生産は2019年に始める。

71億円を投じた新棟は鉄骨造り4階建て、延べ床面積約4千平方㍍。動物細胞をタンクで培養し、抗体医薬をつくる。日本と米国、欧州の医薬品製造管理基準を満たしており、国内外向けの製造ができる。現在20％台の海外売上比率を20年度に50％にする計画だ。

花井社長は「急速にグローバル化を進めている。ここで作られた新薬を世界中の病気で苦しむ人に届けたい」とあいさつした。

商工中金が自社ビル建設

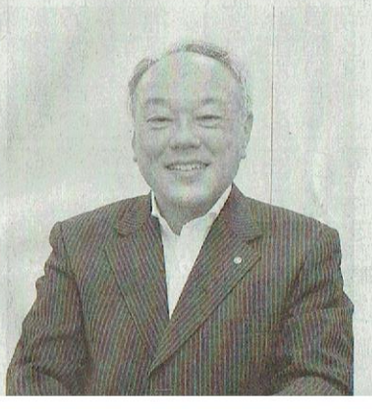
来年度下期めどに移転

商工中金前橋支店（前橋市大手町）は2日までに、同市本町の市有地約880平方㍍を借り受けて自社ビルを建設し、2017年度下期をめどに支店を移転すると発表した。

建設予定地は、現店舗から東へ約100㍍の国道17号と県庁前通りが交わる本町一丁目交差点の一角。

同支店によると、現店舗のビルに約40年入

風人雷人



100年続く企業目指

税理士の小林一仁氏（62）＝高崎市片岡町＝は昨年6月、全国の税理士仲間と智創税理士法人（本店・大阪市）を立ち上げた。同9月から理事長を務める。

税理士法人は同じ事務所内の複数の税理士でつくることが多く、離れた地域の個人事務所が共同で設立するのは極めてまれな取り組みとして注目されている。

メンバーは他に、それぞれが専門知識を提供サービスを提供し、阪、広島の4事務士。同じ勉強会に参加し、信頼関係「連携することで

10期連続の「持ち直し」

前橋 財務判断据え置き

財務省前橋財務事務所は2日、4～7月下旬の県内経済情勢報告を発表し、「一部に弱さがみられるものの、

山本龍市長は「前橋を象徴する交差点に支店を置いていただくことはありがたい。県内中小企業への支援を今後も続けてほしい」と話している。

大企業の特許 中小で活用を

富士通・吾妻氏

前橋市は、同市元総社町の県市町村会館で、自社の技術を生かして新たな商品開発を

は「従業員数が不足しているものの、大企業が幅広く募集をかけているため、中堅・中小企業には回ってこない」（自動車部品メーカー）との声があったという。その他の項目の判断は据え置いた。

高崎市の須田桃園（須

比べても高いという。今にモモをブランド化して3個入り2100～3